# 福島の子どもたちの現状

東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故被災後の状況

うつくしまふくしま未来支援センター こども支援部門 本 多 環

# 東日本大震災 (複合災害)



東北地方太平 洋沖地震とそ れに伴う余震 (倒壊・火災)

復興災害

津 波

東京電力 福島第一 原子力発電所 事故 情報災害

### 必要とされた支援

○被災当初

命を守るために

生きていたい

衣 何か着たい

食 何か食べたい

住 どこかで過ごしたい

生きていたい



生きていくための基本的·本能的な欲求に 対する支援

(食べたい、飲みたい、寝たい)

### 必要とされた支援

○ 第2期

静かなところで 眠りたい

### 安心・安全を得るために

危機を回避したい、安全・安心な暮らしがしたい



- 衣 自分に合った服を着たい 身だしなみを整えたい
- 食 温かいものが食べたい 嗜好にあったものがほしい
- 住 快適に過ごしたい



温かい食べ物がほしい

安全な場所で安心して生きていくための支援 (~を食べたい、~を飲みたい、~で寝たい)

## 子どもたちの状況



### 一年後の子どもたちの姿

地震は怖かったけれど、 もう大丈夫



仲良しのお友だち が転校しちゃった どうしよう・・・



もう学校なんか行 きたくない どうせ私なんかい ない方がいいんだ



生きていたって しかたない



子どもたちの状況が多様化=どうして?

# 福島第一原子力発電所事故発生時、福島県在住であった子どもたち・・・

原発事故発生

避難区域・・・・ 県内への避難を 強いられる 県外への避難を 強いられる

避難区域外・・・ 県内への自主避難 県外への自主避難 避難せず

# 避難した子どもたち





- 〇 地域環境の変化
- 家族環境の変化

### 多様な変化

#### 学校環境の変化

- 学習内容の変化(学習の空白)
- 学級環境の変化
- 交友関係の変化
- 担任との関係性の希薄化

#### 家庭環境の変化

# 地域環境の変化の通学状況の変化

- ○活動場所の喪失
- ○学習の場の喪失
- 生活に関わるルールの変化
- ◦遊びの変化
- 斜めの関係の喪失
- ○居場所の喪失
- ○心のよりどころの喪失

- 家族の分断
- ○居場所の喪失
- 母性・父性の喪失
- 祖父母との関係の喪失
- 家族関係の変化
- 父親・母親の失職
- 父親・母親の発病
- ∞経済力の変化











## 被災した子どもたちの状況

学校環境の変化

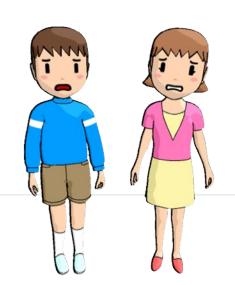
地域環境の変化



家庭環境の変化

# 困り感の絡み合い

※「困り感」とは、嫌な思いや苦しい思いを しながらも、それを自分だけではうまく解決で きず、どうしてよいのか分からない状態にある ときに、本人自身が抱く感覚



# 不安やストレスの増大 自己肯定感の低下

## 被災した大人の状況



先が見えない不安 失 職 生き甲斐の喪失 家族の分断(父親の不在) 地域の分断 放射線に対する不安

### 必要と考えられた支援

# 心のケア

スクールカウンセラー(臨床心理士)の増員 スクールソーシャルワーカーの配置 「心のケアセンター」等の設置 アンケートの実施 「心の健康に関する調査等」 医療・福祉との連携 心理的サポート

教員の加配(兼務)

### 子どもたちの状況

学校環境の変化 地域環境の変化 困り感の絡み合い ストレスの増大 自己肯定感の低下





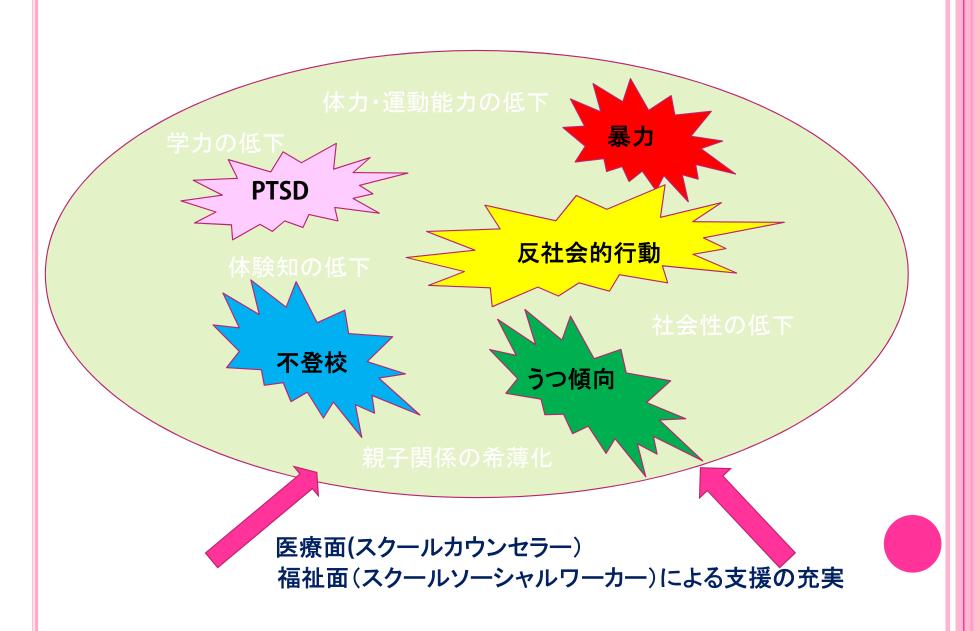
深刻化(問題行動化)

心的外傷後ストレス障害(PTSD) 問題行動化(登校しぶり・不登校・ 反社会的行動)

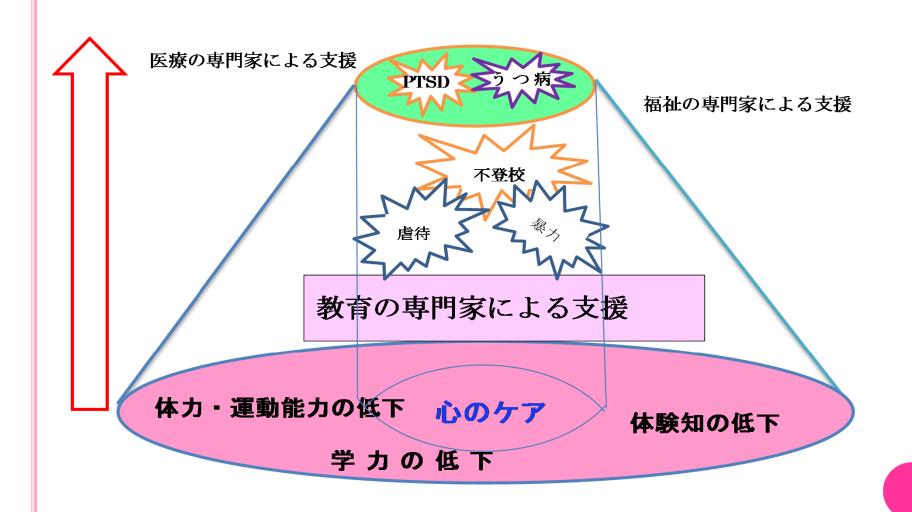
体力・運動能力の低下 学力の低下 生活体験知の低下 「生きる力」の低下 社会性の低下

「心のケア」だけでは解決できない状況

### 「心のケア」という外部支援



### 今後の支援



### 新たな教育支援モデル

「子どもの状況」を見取り

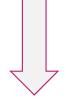
現状把握



理解者として

「子どもがどのような課題を抱えているのか?」を見極め

支援の見通し



教育の専門家として

子どもたちの「生きる力」を高めることができるような 適切な場における適切な課題解決的教育支援を行う (個別化・専門化・継続化)

支援の実施

支援効果の検証



← 教育・医療・福祉の連携

← 実践と研究の連携

コーディネーターとして

「生きようとする力」の向上